

タマネギべと病に注意してください

3月17日の病害虫防除所の巡回調査によると、タマネギべと病の発生圃場率は35.7%で、すでに4月上旬の平年値(38.5%)並となっている。春先の強力な伝染源である全身感染株(図1)の発病に加え、一部圃場では全身感染株周辺への感染拡大が認められている。なお、3月23日発表の広島地方気象台の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みと予想され発生をやや助長する条件であり、雨が多いと、発生の拡大が懸念される。

(防除上の参考事項)

- (1) 本病は、気温15℃前後(4月～5月上旬)で、雨が多いと多発生しやすくなる。
- (2) 本病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成し、これが風雨で飛散し、二次伝染源となって、急速な蔓延の原因となる(図1、2)。分生胞子の飛散範囲は広く、地域一体となった防除が必要である。
- (3) 圃場をよく観察し、全身感染症状(図1)の株は見つけ次第抜き取り処分を徹底する。
- (4) 薬剤防除は予防散布が望ましく、特に発病を確認した圃場では葉によく付着するように薬剤散布を行う。雨天等の天候や薬剤の残効性を考慮しながら、7～10日間隔の防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける(表1参照)。
- (5) タマネギのべと病菌は**ネギやワケギにも感染**し、二次伝染源となる。



図1 タマネギべと病の全身感染株



図2 二次感染株の初期病徴

表1 タマネギべと病の主な防除薬剤

令和5年3月20日現在

薬剤名	希釈倍数	使用基準		成分名 ^{注2)}		殺菌剤コード ^{注1)}	
		時期	回数	成分1	成分2	成分1	成分2
リドミルゴールドMZ	500～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	マンゼブ	4	M3
フォリオゴールド	800～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	TPN		M5
ジャストフィットフロアブル	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	フルオピコリド	ベンチアバリカル ブイソプロピル	43	40
ベジセイバー	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	ベンチオピラド	TPN	7	M5
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日まで	4回以内	アゾキシストロビン	—	11	—
アミスターオプティフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン	TPN		M5
シグナムWDG	1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	ピラクロストロビン	ボスカリド		7
メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピコキシストロビン	—	21	—
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	—		—
ドーシャスフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	TPN		M5
フロンサイド水和剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	フルアジナム	—	29	—
フロンサイドSC		収穫3日前まで					
ザンプロDMフロアブル	1,500～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	アメトクトラジン	ジメトモルフ	45	40
オロンディスウルトラSC	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	オキサチアビプロリン	マンジプロバミド	49	40
フェスティバルC水和剤	600～800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	銅	40	M1
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイ ソプロピル	TPN		M5
カンバナラ水和剤	750～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイ ソプロピル	マンゼブ		M3
ベネセット水和剤						—	
レーバスフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロバミド	—	27	—
ホライズンドライフロアブル	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	ファモキサドン		11
ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	アミスルプロム		21
ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	ベンチアバリカル ブイソプロピル	40	
ブリザード水和剤	1,200倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	TPN	M5	
カーゼートPZ水和剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	マンゼブ	M3	
ピシロックフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピカルブトラゾクス	—	U17	—
ヨネボン水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフェノールスル ホン酸銅	—	M1	—
Zボルドー	500倍	— ^{注3)}	—	塩基性硫酸銅	—		
クプロシールド	1,000～2,000倍	—	—	塩基性硫酸銅	—	M3	—
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	—		
ペンコゼブ水和剤							
ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN	—	M5	—

注1) 殺菌剤コード：FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>）による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達回避のため、連用を避ける。

注2) 混合剤については、各成分の総使用回数に注意して散布する。

注3) 使用基準欄の「—」は、登録制限無しを示す。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

